

# 判の木東遺跡

御射山地区県営畠地帯総合土地改良事業に伴う緊急発掘調査報告書



1988.2

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が判の木東遺跡

## 序

本年度「判の木東遺跡」の発掘調査をおこない、このたびその調査報告書を刊行することになりました。この調査は昭和61年度実施した「箕手久保遺跡」の発掘と一連のものであります。

このような発掘のたびに、長い歴史と文化の重みを痛感するとともに、この貴重な先人の文化遺産を後世に継承する責務を強く感じているところであります。

このたびの発掘にあたり、諏訪地方事務所土地改良課の方々の御配慮をはじめ、長野県教育委員会の御指導、そして地元の県営畠地帯総合土地改良事業御射山地区実行委員会の皆様、地権者の方々、発掘に携わっていただいた皆様方など多くの方々の御好意、御尽力に深く謝意を表する次第であります。

また本調査報告書刊行の過程におきましてお世話になった関係各位に厚くお礼申し上げます。

昭和63年2月15日

原村教育委員会

教育長 平林 太尾

## 例　　言

1. 本報告は「県営畠地帯総合土地改良事業御射山地区」に先立って実施した、長野県諏訪郡原村判の木に所在する判の木東遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から発掘調査費補助金交付をうけた原村教育委員会が、昭和62年8月4日から13日にかけて実施した。整理作業は、昭和62年8月17日から63年1月18日まで行なった。
3. 執筆は、平出一治・伊藤証・平林とし美が話し合いのもとに共同で行ない、図面の作図とトレース・拓本は平林、写真撮影は平出が行なった。
4. 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。なお、本調査関係の資料には、86の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、長野県教育委員会文化課指導主事 笹沢浩・太田喜幸・小林秀夫・芦部公一、井戸尻考古館館長武藤雄六の諸氏に御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

## 目　　次

### 序

### 例　　言

### 目　　次

1 発掘調査に至る経過	1
2 遺跡の位置と環境	3
3 グリッドの設定と調査方法	3
4 発掘調査の経過	6
5 土　層	7
6 縄文時代の遺物	7
7 結　語	8

### 註と参考文献

### 発掘調査団名簿

## 1. 発掘調査に至る経過

昭和59年度から実施されている「県営畑地帯総合土地改良事業御射山地区」も4年目をむかえる。すでに、昭和59年度は花表原・中御射山西・中御射山東の3遺跡を、60年度には御射山遺跡、61年度には箕手久保遺跡の緊急発掘調査を実施してきた。そして、昭和62年度工事予定地域内に判の木東遺跡（原村遺跡番号86）が所在していることから、その保護については、昭和61年10月1日に行なわれた長野県教育委員会の「昭和62年度実施予定の農業基盤整備事業等に係る埋蔵文化財保護協議」で協議された。出席者は長野県教育委員会文化課・諫訪地方事務所土地改良課・原村役場農林課・原村教育委員会の4者であった。

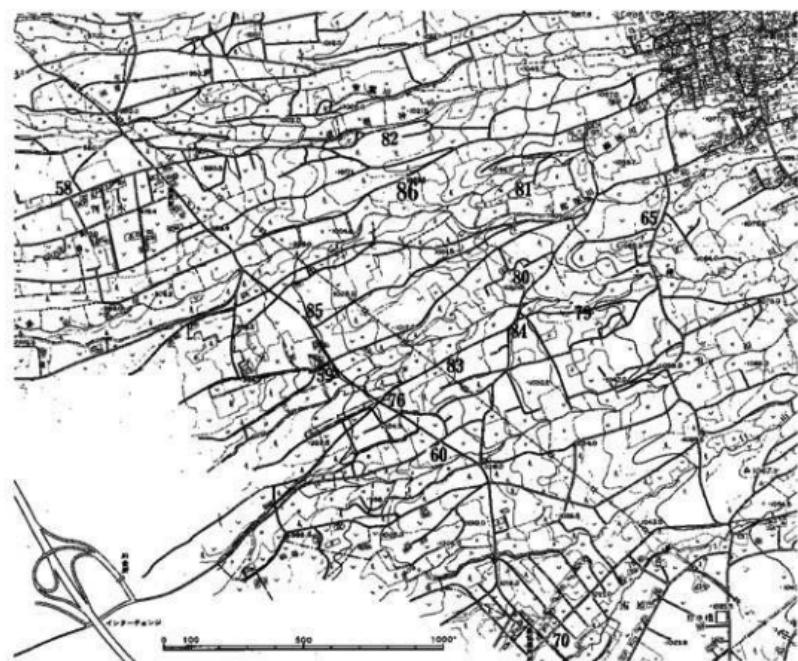
その後、地元に対する説明と協議を行い、原村教育委員会は、諫訪地方事務所から緊急発掘調査の委託を、また、農家負担分については国庫及び県費から発掘調査補助金交付をうけて、昭和62年8月4日から13日にわたり、判の木東遺跡緊急発掘調査を実施した。



第1図 判の木東遺跡遠景（西から）

表1 判の木東遺跡と付近の遺跡一覧

番号	遺跡名	旧石器	縄文				弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中							
58	判の木								○				
59	御射山北沢			○					○				
60	浅間沢									○			
65	梨の木沢												
70	南原西山		○		○								
76	御射山		○		○	○				○	○	○	昭和59・60年度発掘調査
79	中御射山東					○							昭和59年度発掘調査
80	御射山沢				○								
81	堤之尾根沢		○		○					○			
82	前				○					○			
83	花表原					○							昭和59年度発掘調査
84	中御射山西					○							昭和59年度発掘調査
85	笑手久保					○							昭和61年度発掘調査
86	判の木東				○								昭和62年度発掘調査



第2図 判の木東遺跡の位置と付近の遺跡 (1:20,000)

## 2. 遺跡の位置と環境

判の木東遺跡は、中新田区の西方約1km、中央自動車道の諏訪南インター東北方約1.5kmの、長野県諏訪郡原村14353-2番地付近に位置する。

このあたりは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く発達した大小様々な尾根がみられる。その一つである金山沢川（柳林川）と道祖神川にはさまれた判の木尾根の南斜面が遺跡となるが、ここは、いわゆる日溜まり地形となっている。

本遺跡が確認されたのは古いことではなく、昭和59年度に村教育委員会で実施した「県営畠地帯総合土地改良事業御射山地区内における埋蔵文化財緊急分布調査」の折に、土器の破片を採集したことにより注意されはじめた遺跡である。しかし、縄文時代の集落遺跡の立地としてはあまり良くない。

発掘地点の地目は普通畠であるが、東、南、西の三方は水田で、水田の中に調査地が畠地として残っていた状態であった。この付近一帯の尾根は、まだ山林として残っている所が多く、北に隣接する判の木尾根も山林である。地味は、礫が多くあまり良くない。この状態は、すでに発掘調査を実施している花表原、中御射山西、中御射山東、御射山、箕手久保遺跡も同様であった。標高は1020m前後を示し、当方における遺跡としてはやや高所に位置している。

この付近一帯は、八ヶ岳西南麓の中では遺跡の希薄地帯であるが、第2図と表1に示したように、縄文時代を中心とした遺跡が分布している。それらは昭和59年度に実施した分布調査の際に発見されたものが多く、性格および規模などは不明瞭である。ただ、御射山地区県営畠地帯総合土地改良事業に伴う一連の発掘調査結果からみると、比較的小規模遺跡が多いようである。

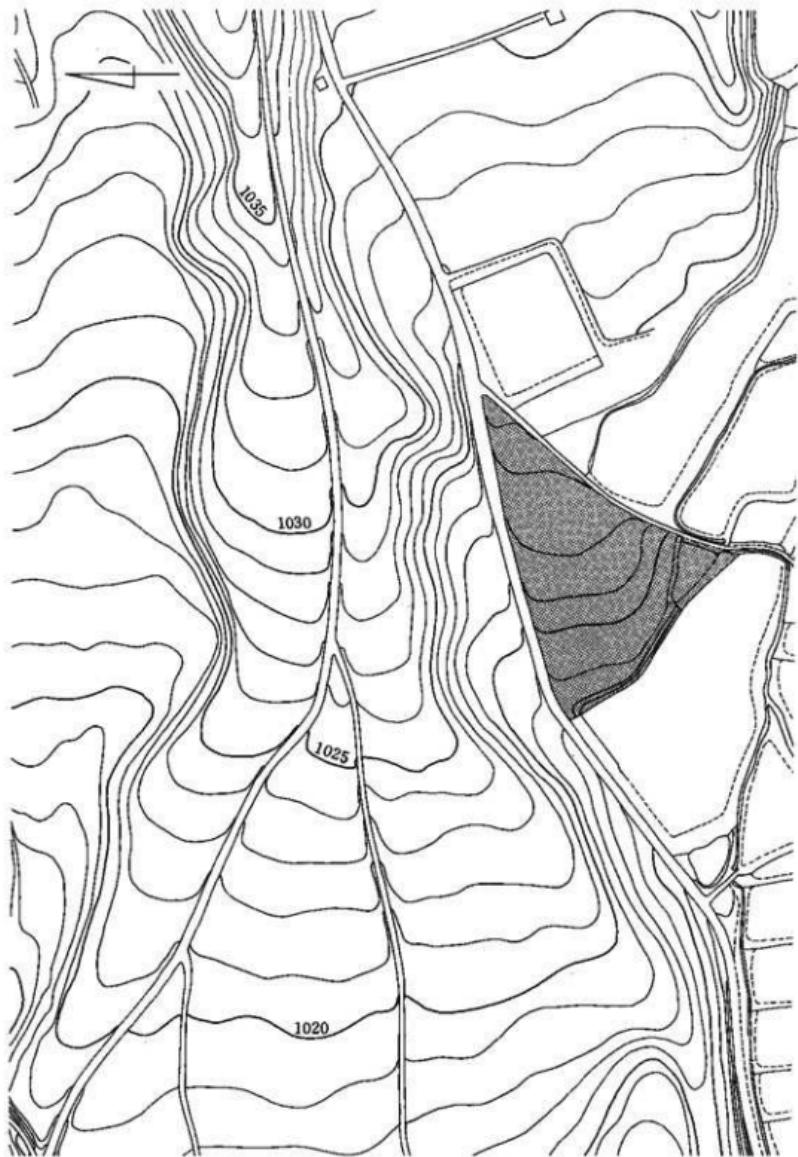
なお、第2図と表1の番号は、原村遺跡番号で表示した。

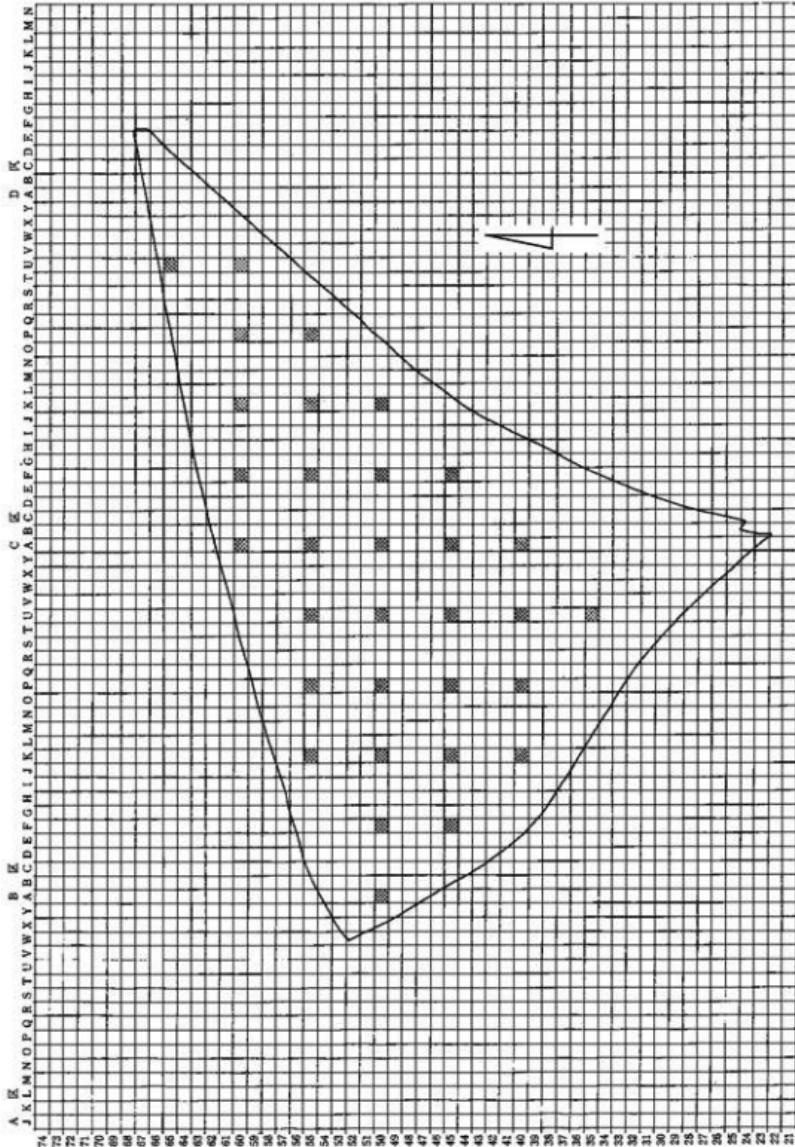
最近このあたりは、中央自動車道の諏訪南インターが近いこともあり、工場の進出もみられるようになってきた。調査区の北西方約400mには三協精機が建設された。その工事の際に完形土器の発見があったことを聞いている。この付近から西側一帯は、今後開発が進む地域となろう。

## 3. グリッドの設定と調査方法

発掘に先立ち、東西南北に軸を合わせたグリッドを設定した。東西方向には50mの大地区を設け、西からA区・B区・C区・D区というようにアルファベットを用いて地区割りをした。大地区の中をさらに $2 \times 2$ mの小地区（グリッド）に分割し、東西方向は西からA～Yのごとく区分した。南北方向には算用数字をふったが、遺跡の中心と思われるラインを51とし、そのラインを

第3図 利の木東道跡発掘調査区域図・地形図(1:2,000)





基準に南方向は 50・49・48 というように南にいくにしたがい小さくなるように、北方向は 52・53・54 と大きくなるように振分けた。

個々のグリッドの呼びかたは、たとえば第4図左端の  $2 \times 2$  m の発掘グリッドでみると、大地区は B 区であり、小地区的東西方向は A ラインにあたり、南北方向が 50 ラインで、それは「A-50」となる。したがって小地区的前に大地区を表記した「B A-50」となる。

発掘は、原則としてソフトローム層上面まで層位別に行なった。

#### 4. 発掘調査の経過

昭和62年8月4日 発掘調査の準備をはじめる。

8月6日 発掘調査にあたりテントの設営。調査区の草刈をした後、グリッド設定を行ない B 区 50 ラインから発掘調査をはじめる。BA-50 グリッドで縄文土器片 B P-50 グリッドから黒曜石の剥片が出土する。

耕作土の直下は、地山の混礫ローム層となり保存状態は極めて悪い。

8月7日 B 区と C 区の発掘作業を行なう。遺物の発見は極めて少なかったが BU-50 グリッドで石錐と黒曜石の剥片、BU-60 グリッドで黒曜石の小剥片が出土する。

やはり耕作土の直下は混礫ローム層となってしまう。C 区のグリッドの中には、数多い礫を包含するものもみられた。それらの礫群に規格性は一切認められないことから集石遺構ではなく、自然流出によるものと思われた。

BU-50 グリッドでは、耕作土中から混礫ローム層にかけて焼土が認められた。その在り方からみて新しいものであろう。

8月10日 引き続き B 区、C 区のグリッド発掘を行う。BP-50 グリッドで黒曜石の剥片 2 点、BU-35 グリッドでスクレイバーと黒曜石の剥片が出土する。

BU-35 グリッドは発掘区最南端となり、ローム層までは深くなるが、ローム層に強い傾斜が認められる。この付近から金山沢川に落ち込んでいくのである。

8月11日 C 区のグリッド発掘を行う。遺物の発見は無い。午後にはテントの撤去をする。

8月12日 グリッドの杭を抜き、機材の撤去、片付けを行なう。

8月13日 機材の水洗い、片付けを行う。

## 5. 土層

第4図のグリッド配置図に示したように、32グリッド 128m<sup>2</sup> の平面発掘を層位別に実施した。本遺跡における層序は、多くのグリッドで耕作土の直下が地山の混礫ローム層となってしまう。耕作土は15~20cmを計るが、耕作土である黒色土の堆積は極めて薄く、中には混礫ローム層を耕作土としているグリッドもみられた。

C区では黒色土の堆積がやや厚くなり、子供の握り拳大から頭大の円礫を数多く包含する黒褐色土層が認められるグリッドもあった。

なお、畑の隅に数多い小礫が拾い集められていることから、以前は耕作土中にも礫が包含されていたのであろう。

以上のことから基本的には、耕作土の直下が地山の礫混入ローム層で、遺物包含層を確認できる状態ではなかった。

## 6. 繩文時代の遺物

発掘調査の結果、縄文時代の土器と石器を僅かに発見しただけである。これらに若干の説明を加えてみたい。

### ① 土器

土器は、1点発見しただけである。



第5図1は、無文の小破片で器形や明確な時期判別もできないが、胎土および焼成からみて縄文時代中期後半のものであろう。



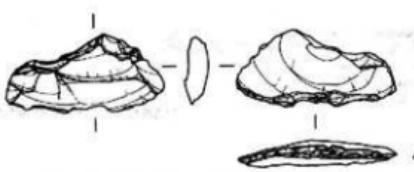
2



3

### ② 石器

石器は、石鋸2点、スクレイバーワーク1点と黒曜石の剥片6点を発見した。



第5図 縄文時代の土器拓影と石器実測図 (1:2)

第5図2・3は、黒曜石製の石

鐵で、2は表面採集した凹基無基鐵の完形品。3はBU-50グリッド出土で基部を欠損する。2点とも当地方で一般的にみられるものである。4は頁岩製のスクレイバーで、刃部を大きく破損している。使用のための刃こぼれであろう。BU-35グリッド出土。

黒曜石の割片は全て小さいものばかりで図示しなかった。

## 7. 結 語

本調査で発見した資料は少なく、遺構を確認するまでにはいたらなかったが、この事実が判の木東遺跡の性格を物語っていることになろう。

発見遺物をみると、土器は1点と少ないし、石器も9点と少ないが、石鐵が2点、スクレイバーが1点というように、全体数からみたときいわゆる定形石器が多く、ただ単に遺物散布地を考えることはできないようである。

発掘調査対象区が判の木尾根の南斜面の日溜まりで、一見遺跡立地に適合しているように見えるが、実際は北側に隣接する判の木尾根が最適のようである。判の木尾根の北側でも、昭和59年度に実施した「県営畠地帯総合土地改良事業御射山地区内における埋蔵文化財緊急分布調査」の折に、打製石斧、黒曜石、灰釉陶器の破片がそれぞれ1点ではあるが採集されている。調査者は前沢遺跡（原村遺跡番号82）と呼び「時期は異なるが3点の発見があり、包藏地の可能性がある」としている（註1）。しかし、当地方における縄文時代の遺跡立地にはやはり適していないようである。

そこで調査期間中に、判の木尾根をはじめ付近を踏査した。尾根上は山林のため遺物を採集することはできなかったが、幅は100mをゆうにこえる極めて広いもので、村内でも指折りの大きな尾根である。調査区の北西方約400mの尾根末端部では三協精機建設工事の際に、完形土器が発見されたと聞いている（註2）。資料は少ないと云うものの、尾根上が縄文時代の遺跡であることは十分実証できる。

昭和50年度から中央自動車道の建設に伴って発掘調査が実施された。阿久遺跡と居沢尾根遺跡も、発掘調査当初は尾根上が山林であったこともあり、尾根の南斜面だけを遺跡と考えていた。しかし、調査が進む中で、尾根全体が遺跡であることが判り、その中心は南斜面ではなく尾根上であることが判明した。また、居沢尾根遺跡では、尾根の反対斜面から阿久川までを中阿久遺跡として発掘調査を実施しているが、遺物の発見は少なく、報告書の中で（註3）「（前略）おそらく本遺跡は独立した遺跡ではなく、居沢尾根遺跡のつながりとしてとらえた方がよいと思われる」と、居沢尾根遺跡の範囲内と考えるようになった。

以上のように、表面採集における遺跡の範囲確認が、山林地域にかかっている場合の難しさを知り、地形を考慮する中で範囲を決めていかなければならないように思えた。

判の木東遺跡と前沢遺跡のあり方は、居沢尾根遺跡と中阿久遺跡に極めて類似する状態であり  
判の木東遺跡と前沢遺跡は、その間に位置する判の木尾根上を中心とした一つの遺跡と考えた方  
が良いようである。

したがって、本遺跡名は尾根の名称である「判の木尾根遺跡」と呼ぶのが正しいように思われ  
本調査は判の木尾根遺跡の南斜面の調査と考えておきたい。

最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚く御礼申し上げる次第である。

#### 註と参考文献

##### 註

- 註1 昭和59年度実施の県営畠地帯総合土地改良事業御射山地区内における埋蔵文化財緊急分布調査  
『調査カード』
- 註2 県営畠地帯総合土地改良事業御射山地区内における埋蔵文化財緊急分布調査の担当者五味一郎氏  
教示
- 註3 1979. 3 山田瑞穂・青沼博之「中阿久遺跡」『昭和51年度 長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発  
掘調査報告書 茅野市・原村その2』

#### 参考文献

1980. 03 長野県教育委員会『昭和54年度 八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書』
1985. 03 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財2 花表原・中御射山西・中御射山東遺跡 県営畠地帯  
総合土地改良事業御射山地区埋蔵文化財包蔵地緊急試掘調査報告書』
1985. 07 原村役場『原村誌 上巻』
1985. 11 原村教育委員会『長野県原村遺跡地名表』
1986. 03 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財3 御射山遺跡(第2次発掘調査) 御射山地区県営畠  
地帯総合土地改良事業に伴う緊急発掘調査報告書』
1987. 03 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財8 笑手久保遺跡 御射山地区県営畠地帯総合土地改良  
事業に伴う緊急発掘調査報告書』



遺跡遠景（南東から）



発掘風景（B区）



発掘風景（C区）

発掘調査団名簿

団長 平林太尾（原村教育委員会教育長）

調査担当者 平出一治（原村教育委員会）

調査員 伊藤 証（原村教育委員会）

調査補助員 平林とし美

調査参加者 小林静子 藤原智恵子 宮坂とし子 菊池利光 平林けさゑ 中村すづみ 菊池規元 早川卓二  
(順不同)

事務局 原村教育委員会事務局——行田竹輝（教育次長） 武田伊都子（主任） 遠見茂子  
佐貫正憲

原村の埋蔵文化財 9

判の木東遺跡

御射山地区県営畠地帯総合土地改良事業に伴う緊急発掘調査報告書

発行日 昭和63年2月15日

発行 原村教育委員会

長野県原訪郡原村

印刷所 ミウラ企画書籍

